

BPCラウンドテーブル 2013 メルボルン 報告書

一般財団法人大阪国際経済振興センター

BPC ラウンドテーブル 2013 メルボルン

◆ BPC ラウンドテーブル 2013 会議及び関連行事の開催報告について

1. BPC ラウンドテーブル 2013 会議

開催日時: 2013 年 9 月 5 日(木) 13:30 - 17:30

会 場: メルボルン市議場

テ - マ: 「ビジネス・オブ・デザイン」 - ニュービジネスと都市機能の推進

Business of Design - driving new business and city capabilities

議長(進行):メルボルン市 都市ビジネス 局長 マーティン・カッター 氏

プログラム:

- 13:30 - 13:45 名刺交換
- 13:45 - 13:50 議長による開会 (及び簡単な進行説明)
- 13:50 - 14:00 歓迎挨拶 メルボルン市 スーザン・ライリー 副市長
- 14:00 - 14:10 議長により大阪市議員団の紹介
挨拶 大阪市 村上 龍一 副市長 (逐次通訳:日本語⇒英語)
- 14:10 - 14:15 議長によるBPC提携機関参加者紹介
※参加者紹介後、大阪市村上副市長及び議員団は退席
- 14:15 - 14:25 大阪 プレゼンテーション
- 14:25 - 14:35 香港 プレゼンテーション
- 14:35 - 14:45 シンガポール プレゼンテーション
- 14:45 - 14:55 バンコク プレゼンテーション
- 14:55 - 15:05 クアラルンプール プレゼンテーション
- 15:05 - 15:15 ジャカルタ プレゼンテーション
- 15:15 - 15:30 休憩
- 15:30 - 15:40 上海 プレゼンテーション
- 15:40 - 15:50 ホーチミン市 プレゼンテーション
- 15:50 - 16:00 メルボルン プレゼンテーション
- 16:00 - 16:20 フリーディスカッション
- 16:20 - 16:30 コンタクトパーソンについて
- 16:30 - 16:40 2013年ラウンドテーブル開催(ジャカルタ商工会議所より)について
- 16:40 - 17:00 記念品贈呈 & 写真撮影(集合写真)
- 17:00 議長閉会挨拶

2. 会議出席 各 BPC 都市代表者:

	都市/City	団体名/Organization	役職/Title	名前/Name
1	1 香港 Hong Kong	香港貿易發展局 Hong Kong Trade Development Council	オーストラリア・ニュージーランド担当局長 Regional Director, Australia and New Zealand	ボニー・シェック Ms. Bonnie Shek
2	2 シンガポール Singapore	シンガポール国際企業庁 International Enterprise Singapore	北アジア・太平洋グループ、シニア・マネージャー Senior Manager, North Asia & Pacific Group	シ・フィー クン Ms. Ng Hwee Koon
3	3 バンコク Bangkok	タイ商業会議所 Thai Chamber of Commerce and Board of Trade of Thailand	副会頭 Vice Chairman	パイラット・ブラパチャイシー Mr. Phairush Burapachaisri
4	4 クアラルンプール Kuala Lumpur	マレーシア貿易開発公社 シドニー Malaysia External Trade Development Corporation(MATRADE)	貿易コミッショナー Trade Commissioner	モハメド・シャイフル・モハマド・シャリフ Mr. Md. Shaiful Md. Sharif
5	5 マニラ Manila	フィリピン共和国貿易産業省 対外事業部 Foreign Trade Service Corps Department of Trade and Industry Republic of the Philippines	フィリピン領事(商業) 特別通商代表 オーストラリア&ニュージーランド Philippine Consul (Commercial) and Special Trade Representative to Australia and New Zealand	エマニエル・ニノ・W・アン Mr. Emmanuel Nino W. Ang
6	6 ジャカルタ Jakarta	6 ジャカルタ商工会議所 Jakarta Chamber of Commerce & Industry	外交委員長 Head of Committee of Foreign Relations	ファティヤ・フェラジヤ・ハルミディ Ms. Fathya Feurazia Hamidy
		7 ジャカルタ商工会議所 Jakarta Chamber of Commerce & Industry	外交常任委員 Permanent Committee of Foreign Relations	ユリアンドレ・ダルウィス Dr. Yulandre Darwis
		8 ジャカルタ商工会議所 Jakarta Chamber of Commerce & Industry	中小企業常任委員 Permanent Committee of Small Medium Enterprise	アユ・プツ・ケサリ Ms. Ayu Putu Kesari
		9 上海市商務委員会 Shanghai Municipal Commission of Commerce	副主任 Vice Chairwoman	ウー・シンバオ (吳 星宝) Mr. WU Xingbao
7	10 上海 Shanghai	上海市商務委員会 Shanghai Municipal Commission of Commerce	市場秩序管理处 Department of Market Operation Regulation	タオ・ウエンチン (陶 文卿) Mr. TAO Wenqing
		上海市商務委員会 Shanghai Municipal Commission of Commerce	外事処 Foreign Affair Department	チェン・リン (陳 琳) Ms. Chen Lin
8	12 ホーチミン Ho Chi Minh City	ホーチミン市人民委員会 People's Committee of Ho Chi Minh City	産業通商局 副局長 Deputy Director, Department of Industry & Trade	トラン・ビン・ニュン Dr. Tran Vinh Nhung
		13 ホーチミン市人民委員会 People's Committee of Ho Chi Minh City	産業通商局 貿易&外国市場部長 Head of Division, Division of Foreign Trade and External Market, Department of Industry & Trade	グエン・チ・ゴック Ms. Nguyen Thi Ngoc
9	14 メルボルン市 Melbourne	メルボルン市 City of Melbourne	副市長 Deputy Lord Mayor	スーザン・ライリー Ms. Susan Riley
		15 メルボルン市 City of Melbourne	委員長 経済発展ポートフォリオ Chair - Economic Development Portfolio	ケビン・ルーイ Cr. Kevin Louey
		16 メルボルン市 City of Melbourne	局長 都市ビジネス Director City Business	マーティン・カッター Mr. Martin Cutter
		17 オーストラリアン・インダストリー・グループ Australian Industry Group	ビクトリア支部 局長 Director - Victoria Branch	ティモシー・パイパー Mr Timothy Piper
		18 オーストラリアン・インダストリー・グループ Australian Industry Group	貿易・輸出促進部長 Manager - Trade and Export Development	ルイズ・マックグラス Ms. Louise McGrath
		19 大阪市 City of Osaka	経済戦略局 都市間交流担当課長 Manager for International Relations, Economic Strategy Bureau	鳥山 孝之 Mr. Takayuki Toriyama
10	20 大阪 Osaka	大阪市 City of Osaka	経済戦略局 経済交流担当課長 Manager for Economic Exchange, Economic Strategy Bureau	和田 彩 Ms. Aya Wada
		21 大阪ビジネスパートナー都市交流協議会 Osaka Business Partner City Council	常務理事兼事務局長 Executive Director and Secretary General	唐内 聡 Mr. Satoshi Tonai
11	22 事務局大阪 Secretariat Osaka	大阪市 City of Osaka	経済戦略局 経済交流担当係長 Liaison Officer for Economic Exchange, Economic Strategy Bureau	松浦 琢磨 Mr. Takuma Matsuura
		23 (財)大阪国際経済振興センター Osaka International Business Promotion Center	国際課経済交流プロジェクト主査 Project Manager, Economic Exchange Division.	筒井 英喜 Mr. Hideki Tsutsui
12	24 事務局メルボルン Secretariat Melbourne	メルボルン市 City of Melbourne	ビジネス&国際部 州都グローバルチームリーダー Team Leader, Capital City Global, Business and International Branch	フランセス・フー Ms. Frances Fu
		25 メルボルン市 City of Melbourne	プロジェクトオフィサー Project Officer	ステラ・チャン Ms. Stella Zhang
		26 メルボルン市 City of Melbourne	プロジェクトオフィサー Project Officer	トレイシー・ダーマニン Ms. Tracey Damnanin
		27 メルボルン市 City of Melbourne	プロジェクトオフィサー Project Officer	ルーシー・ルー Ms. Lucy Luo
		28 メルボルン市 City of Melbourne	国際アドバイザー International Advisor	テリー・ウー Mr. Terry Wu

3. 各都市のプレゼンテーション発表要旨

【開会挨拶】メルボルン市副市長 スーザン・ライリー氏

メルボルンには何百というデザイナーやデザイン会社が集積しており、185,000人以上の人々がこの産業に従事している。このような人々の専門は建築設計、都市設計、ファッション、宝飾品、家具、マルチメディア、IT、グラフィックデザインと多岐にわたっている。「デザインセクター」は経済に約70億ドルもの貢献をしている。また私どもメルボルン市は積極的にイノベーションやクリエイティブデザインの育成に取り組んでいる。このため今回のラウンドテーブルは非常に重要な意味を持つ。この会議により各都市がどのようにデザイン産業の育成やクリエイティブ教育がなされているのか、今回のテーマは大変興味深く、個人的にも非常に楽しみにしている。



【大阪市】 - 発表者：大阪市経済戦略局 経済戦略局 経済交流担当 和田 彩 課長)

大阪市ではクリエイティブ産業の振興に尽力している。分野はデザインだけでなく、建築設計、広告、情報サービス、映像、音声などや知的財産管理全般。大阪は10,000社を超えるクリエイティブ産業の集積地。中でも大阪ではデザイン分野の事業所数の集積数で飛びぬけている。なぜ大阪ではクリエイティブ産業に注目が集まっているのか？この背景としては経済のグローバル化があり、大阪の中小企業にも産業構造やビジネスモデルの転換が求められているからだ。これをしないと新市場の開拓ができない。大阪の22万社の事業所のうち99%は中小企業。中小企業、ものづくり企業にとって新しい事業開拓するにはデザイン、ブランド化による差別化、クリエイティブ産業による高付加価値化が必要。大阪市ではものづくり産業とクリエイティブ産業の協働が推進されている。また、クリエイター同士が結びつくことで新しい産業が生まれている。その拠点として機能しているのが「メビック扇町」のような機関。「メビック扇町」はクリエイター達のハブであり、マッチングとワークショップの場。また新たな仕事の創出や新しい潜在顧客の開拓にも貢献している。新しい製品開発の事例が複数あり、玩具メーカーがクリエイティブスタッフと協働して新商品開発した例もある。このように大阪市ではものづくり産業とクリエイティブ産業の協働を促進する活動に力を入れている。



【香港】発表者：香港貿易発展局 オーストラリア・ニュージーランド担当局長 ボニー・シェック氏

自分自身はシドニー在住であるが、メルボルンはファッションの都。香港もまたクリエイティブティのハブである。どうやって香港はクリエイティブティの街としての存在感を維持しているのか？

政府は透明性がありオープンであり、税金システムもシンプル、消費税もない。それがクリエイティビティを育む要素になっている。香港には海外企業 3800 社の本社があり、デザインのショーウィンドウ的な役割を果たしている。香港はデザインを実際のビジネスに落とし込むことが得意。例えばアレッシイ、フェラーリ(サイモン・マー)、ヒルトンなどのデザインとそのブランド化。また、この分野のビジネスにとって知的財産管理は非常に重要。私どもの香港貿易発展局は中国本土中、世界中にオフィスがあり、デザインのビジネス化に貢献している。オーストラリアのデザイン能力はまだまだ可能性があるため、今後も豪州内で活動を活発にしてゆく。香港出身のデザイナーは中国に非常に注目している。例えば、デザインの現場でいえば、フェラーリレッドと竜の組み合わせ等。香港の高いデザイン能力はまだまだ知られていないので、この分野の振興をどんどん行なう必要がある。



【シンガポール】 - 発表者: シンガポール国際企業庁 北アジア太平洋グループ シニアマネージャー
ン・フィークン氏

経済というのはアイデア主導になりつつある。ゆえに今回のラウンドテーブルの議題は非常に重要。デザインというのは企業がイノベーションや差別化を経て新しい製品を作っていくだけではなく、顧客が求めるもの、ニーズを満たしていくためにも重要である。デザインはサービスやものづくりの競争力を高める。イノベーションサービスにより効率も上がり、よりよい製品の提供を通してデザインは人々の生活の向上にも役立っている。



私どもの国際企業庁について説明すると、シンガポール貿易産業省の管轄下にあり、対外部門の推進を行なう役割を担っている。

シンガポールは成功事例を中国とも共有している。例えば、シンガポールは天津エコシティプロジェクト、広州ナレッジシティなどの共同プロジェクトに参加している。ジュロングインターナショナル、RSPといった企業とも協働し、500 万人以上のアジア人に住宅を提供している。

ラボタニカ、サバンナ、アルカルバ・エネルギーシティなどのプロジェクトにも参加している。すみやすい都市設計、水の淡水化、浄水化、工場の建設なども行い、「ホームアウェイホーム」をコンセプトに世界中にネットワークを構築している。これはシンガポールのホスピタリティビジネスのコンセプトにもなっている。シンガポールは中国だけではなく、120 の国々と 600 以上の港湾と結びつきを持っている。PR面での成功が他国での拡大に繋がっている。

【バンコク】 発表者: タイ商業会議所 副会頭 パイラット・ブラパチャイシー氏

タイは主にバンコクの観光についてプレゼンを行ないたいと思う。

昔はサイアムと呼ばれていた時代から、バンコクは 4 番目の首都。(230 年の中で 4 回遷都を行なっている。) 港町としても、文化的、外交的、教育的、商業的にも栄えているバンコク市は 21 世紀のメッカと呼ばれるモダンな街である。1500 平方キロメートルで、メルボルンと同じように街の中には川が通っており「アジアのベニス」とも言

われる。運河はタイの観光名物の1つでもある。

バンコクは世界一の観光都市として有名であり、米国で有名な旅行雑誌でも観光地として一番人気のある都市ということになっている。ロンクラトン祭りやソンクラン祭り、また運河に沿ってのマーケットなど観光資源となる風物詩的なものにも恵まれている。もともと輸送手段として使っていた運河は観光名物の一つであるが、運河に沿って有名な観光スポットが沢山ある。また、バンコクはショッピングや食事でも多くの人を惹きつけている。サンデーマーケットも有名であり、ありとあらゆるものが売られている。チャイナタウンでは金細工の132の店が存在し、世界でも有名なジュエリー・金の祭りもある。巨大なショッピングマーケットも非常に魅力的である。



バンコクは24時間眠らない街と言われている。空港も24時間オープンしている。物価も安価なものから非常に高価なものまでビジターの予算にあわせて多岐にわたる商品があるため、旅行者のニーズに広く対応することができる。このため非常に旅行しやすい。今年度の旅行者は2500万人。空港は既に利用客が4500万人に達した。とにかく観光業が発達している。バンコク国際フィルムフェスティバルというイベントも有名。このバンコク国際フィルムフェスティバルではインド系の参加者が多く、映画製作も積極的に行っている。

現在ではバンコクに旅行者として半年で260万人が中国から訪れている。拡大するバンコク都市部ではさらに街を住みやすくすることに取り組んでおり、このため公害対策、ゴミ処理も進んでいる。また交通手段として自転車奨励を行なっている。

【クアラルンプール】 - 発表者： マレーシア貿易開発公社 貿易コミッショナー モハマド・シャイフル・モハマド・シャリフ氏

マレーシアにおけるデザイン産業について

マレーシアは急速に成長を遂げている国であり、2020年までにはさらに大きく成長することも予測されている。他国との競争も激しくなってきた近年、競争力を維持するためには我々も生産性を上げていかねばならない。現在の経済状況と急速に変化する市場状況を鑑みると、価格を抑えながらも品質も維持していく必要がある。このため、我々は新しい製品のリサーチと開発を継続する必要があり、イノベーションに富んだ品質の良いデザインを提供していかねばならない。まさに良いデザインは価値を上げるだけでなく、お客様を満足させることができるのである。



現在マレーシアの製品やサービスは品質の高さと信頼性で世界によく知られている。世界のサプライチェーンにおいてマレーシアの企業は様々なソーシングパートナーと協業を行なっているが、世界中のネットワークで、例えば、セミコンダクター、医療機器、加工食品、建材、ヘルスケア、教育、アウトソーシングサービス、情報、コミュニケーションテクノロジー (ICT)、エンジニアリングサービスなど業界で世界中の企業と協業している。このようなパートナー企業はマレーシア企業との協業に非常に満足している。マレーシアにおいてビジネスセクターは強みを増しつつある。

特にマレーシアのデザイン産業は急速に伸びている。

マレーシアのデザインは様々なセクターにまたがってサービスやエンジニアリングだけではなく、建築、家具資格、アート、電子電気、薬品、ゴム、交通機器、ギフト、事務用品、宝飾品、繊維アパレル、文具用品などにも取り入れられており、市場からの高いニーズにもこたえている。例えば、軍事、農業、フィルタレーション、コンポジット、産業安全性、コーティング、インスレーションなどが車の生産の技術として必要とされているが、もちろんこの分野でもデザインを取り入れることで、高い品質やタイムリーな納品を実現することに成功している。

マレーシアのデザイン委員会は新しい楽しみを創出し、クリエイティビティを伸ばすため、技術産業、デザイン開発、イノベーションに対する支援を行なっている。マレーシア政府からの支援にはデザイン能力を高めるプログラムなども含まれている。デザインのスタンダードやクオリティを高めることで国際競争力を高めることが可能になる。このための意識改革にも大いに貢献している。デザインに対する意識改革を進めるため、デザインを通じたものづくりの効率性、オペレーションの向上、知的財産の保護などに尽力している。このためマレーシアはWIPO(世界知的所有権機関)やTRIPS協定(知的所有権の貿易関連の側面に関する協定)にも加盟している。

都市デザインでいえば、クアラルンプールはビジネスの中心地であり、新しい都市建設、大クアラルンプールプロジェクトを計画している。ITのメッカ プラジャヤでは投資家に特別に保護を与えている。

【マニラ】 発表なし

【ジャカルタ】 - 発表者: ジャカルタ商工会議所 外交常任委員 ユリアンドレ・ダーウィス氏

ジャカルタ商工会議所 外交委員長 ファティヤ・フェラジア・ハルミディ氏

「新生ジャカルタ - 産業創出のための新たなアプローチとインフラの新規整備」

グリーンデザインについて主に話したいと思う。

現在インドネシアでは革命的な政府(汚職がなく、実践的な政府)を目指している。

新しい政権になってクリエイティブな気運が上がってきた。

1) 景気回復に向けたインフラの整備

首都ジャカルタでは、以下のことに注力している。

- ✓ 「革新的」政府の樹立
- ✓ 河川改良
- ✓ 住宅供給プロジェクト
- ✓ 区画整備
- ✓ 道路拡張
- ✓ モノレール建設



道路を増やして、建物や人の流れが川沿いの地域に集中しないように尽力している。現在ジャカルタでは環境にやさしいモノレールや6本の高速道路建設も行なっている。

2) ジャカルタ経済を支える産業創出のための新たなアプローチとしてのシャリアフランチャイズ

まずシャリアビジネスとはイスラムの教えに沿ったビジネスのこと。基本にあるのはシャリアの原則に基づいた双方両得のビジネスであり、双方が利益を得て、どちらも損をしないビジネスという考え方である。シャリアビジネスの主な要素は以下の通り。

- ✓ 実践者の行動は当人の意思に基づく倫理的決断と呼ばれる。
- ✓ 善意に裏打ちされた行動は、礼拝に等しい行為とみなされる。
- ✓ 閉ざされた自己中心的なアプローチではなく、開かれたアプローチによって倫理を実践する。

シャリアフランチャイズの目的とは、

- ✓ 自己資本によるビジネスの拡大を図る。
- ✓ 起業家精神を高める。
- ✓ 雇用機会を創出する。
- ✓ 中小企業を増やす。

シャリアフランチャイズのビジネスモデルとは

- ✓ 毎月のロイヤリティ料不要
- ✓ フランチャイザーが全面的に直販店を運営
- ✓ フランチャイジーは毎月受動的所得を得る
- ✓ 利益保証
- ✓ 協力方式により利益を折半

実例としていくつかの成功しているシャリアフランチャイズを紹介する。(CBCとババラフィの例)

ジャカルタ商工会議所は以上のような事業を推進している。そのため500万ドルの予算をあてている。景気回復のためのインフラ整備やシャリアフランチャイズの振興によりインドネシアは金融危機の中でも経済回復できると信じている。

【上海】 - 発表者：上海市商務委員会 副主任 ウー・シンパオ氏

まず「上海のデザイン産業の最新情報」について、そして「デザイン産業の成長に向けた上海の取り組み」、そして「デザインビジネスの展望」についてお話したい。

「上海のデザイン産業の最新情報」

上海がユネスコ創造都市ネットワークにデザイン都市として加盟してから3年になる。上海のデザイン産業はすばらしい勢いを得ており、産業付加価値の平均成長率を上回る成長をしている。

デザイン産業は経済成長についても産業再編、変革についても非常に重要な役割を担っている。上海では2012年

129万人の人が文化・クリエイティブ産業で雇用されていた。総生産額は対前年比で11.3%の伸びの7695億元を実現している。算定した付加価値額は10.8%増の2269億元を実現した。これはGDP成長率を3.3%上回る数字である。これはGDPの11.29%を占め、さらには前年比として0.42%の伸びを示した。



上海はデザインの都市としての育成を目指し、デザイン産業の発展に資する環境の整備に努めている。その結果として建築デザイン、産業デザインとも前年比で大きく成長している。上海は資源集約のアドバンテージを背景に数多くの新たなセクターが誕生してきた。

上海のデザイン産業は3つの特徴がある。

1. 急速な成長を遂げ、明確な役割を持つ新産業である。・・・加速度的な発展。上海が経済発展の方向性を転換するための原動力。
2. 多様なセクターを巻き込んだ協働・・・デザイン戦略の推進を背景に上海のデザイン産業は製造業や、商業、貿易活動と密接に連携し、企業の自己革新力と製品の付加価値の向上に一躍買っている。
3. 文化的なビジネスとデザイン産業との相互交流の急速な発展・・・中国文化を継承する一方で、近代の多文化的要素を受け入れることがクリエイティブな活力を生み出し、文化ビジネスの力強い発信力につながっている。

「デザイン産業を育成するために集中的に独自に行われて来た取り組みについて」

様々なものづくり産業や主要なプロジェクトは戦略的に推進されてきた。ファッションや消費財もブランドの育成と繁栄によって一層の前進をみせた。大規模なプロジェクトが順調に進展し、環境整備の推進にも寄与してきた。上海デザイン推進センターの誘致等により国家レベルの産業基地やデザイン産業専門の拠点整備が推進されてきた。

また産業の統合や新規産業の育成と市場の開拓が行われてきた。たとえば、次のような施策が講じられてきた。

- デザインと技術の統合

デザインとテクノロジーの統合などをテクノロジー統合計画で行なってきた。

インターネットTV、デジタル出版、3Dテレビその他の実証プロジェクトが進められてきた。

- デザインと製造の統合

デザインと生産の融合が主要な企業によって進められてきたが、これもデザインのイノベーションにつながっている。産官学協力を推進。

- デザインと金融の統合

中小のデザイン会社を対象とした金融サービスのパイロットプロジェクトが実施されるとともに投資資金と融資資金の連携化が進められている。またクリエイティブ系企業の上場支援も行われている。

- デザインと貿易の統合

意匠権、著作権の推進R&Dの統合やイノベーション、

- デザインと観光、スポーツ、教育の融合

デザインによるスポーツイベントの拡大、デザイン業界、教育界、学会の協力を推進し、研究成果に基づく職業訓練の開発。非常に高い付加価値のついた製品の目標はグリーン。

「上海のデザイン産業の今後」

企業競争力の向上の上でも重要。

デザインの創造性はブランド構築の重要な要素である。従って、伝統的な製品にデザインを取り込んでいきたい。そして国際的なチャンネルを構築し、現地のファッション性を取り入れIP(知的財産権)で保護して世界で売り出し

てゆきたい。今後上海はローカルの製品をIPで保護して世界中で売り出していく。

焦点をあてていくのは日用品、アパレル、アクセサリ、宝飾品、家庭用品、デジタル、その他で比較優位性が高く、都市のイメージ、生活の質のイメージを反映するもの。

同時にファッションのランドマークやプラットフォーム、ブランド、有名人、イベントなどを活用して、上海が国際的でファッションナブルなメトロポリスとして中国文化とデザインを融合したものを生み出していけるようにしたい。

また、開発能力を発展させて、建築デザイン産業を一層発展させてゆきたい。都市デザイン、建築デザイン、インテリアデザイン、工学系デザインなどに焦点を当て、プランニング、コンサルティングやコンセプトデザインなど、産業バリューチェーンの強化をはかるとともに、優れた国内外の建築デザイン産業に学び国際的に認められる建築設計会社や人材を育てていきたい。上海の建築デザイン産業はクリエイティビティそして強さに引けをとらない。世界的にも有名な建築会社、デザイン会社が上海にあることを誇りに思っている。

【ホーチミン市】 - 発表者： ホーチミン市人民委員会 産業通商局 貿易&外国市場部長
グエン・チ・ゴック氏

「デザイン産業：新産業創出と都市力強化の起爆剤」と題して、ビジネスのデザインとベトナムの経済状況について話したい。

デザインにどのように取り組むか？

ベトナムの経済状況は 1986 年～2010 年までのGDP成長率7% 2011 年～2012 年までのGDP成長率 5.5%。輸出の統計では、2012 年輸出高は 1146 億 3000 万ドル。2013 年上半期の輸出高は 620 億ドル。主要輸出品目は衣料、繊維、履物、木製品だった。残念ながらベトナムの競争力はアジア諸国の中でも遅れをとっている。競争力で言うと 139 カ国のうち 59 位、高等教育と職業訓練では 93 位。



ベトナムの輸出産業が抱える問題点

1. 製造業、サービス業ともに、新人に基本的な就労スキルが欠けている。
2. 能力のある技術者と中堅管理職が不足している。このため教育が必要。
3. 製品のデザインに特化した職業訓練が十分に行なわれていない。

上記の問題点の解決策

- 産業毎、セクター毎に競争的環境を整備するために具体的な産業別施策を策定して、輸出産業の生産性を高め、その成長をはかること。(つまり、デザインが重要な役割の一端を担っている。
- 教育に投資すること。戦略プログラムを使って、産業界をサポートする必要がある。輸出の数字が思ったほど高い数字ではないのは海外のニーズを満たすほどのレベルに達していないとの現れ。

ベトナムは製品のデザインを向上させるべき、さもないと国際競争力に問題が生じる。そのためにはデザイン業界をさらに強化する必要がある。

ベトナムが強みを発揮できるデザイン分野としては、繊維、衣料、履物、家具、手工芸品。

最後にベトナムでのデザインの例を紹介する

1. 籐工芸村、陶器村、刺繍村、などの手工芸品村の例

2. ファッションデザイナー(シー・ホアン、ミン・ハン)
3. ミンロン社の陶製品
4. XQ 刺繍
5. 竹製品

【メルボルン】 - 発表者 メルボルン市 経済発展ポートフォリオ 委員長 ケビン・ルーイ氏

2000年、2007年に引き続きメルボルンのBPCラウンドテーブルの主催は3回目となります。この世界で最もすみやすい都市を代表して、今回のBPCラウンドテーブルのホストの機会を与えていただいたことに皆様にお礼を申し上げます。

オーストラリアでは都市が原動力となって国の経済を牽引している。GDPの80%が都市から生まれ、このため都市ではナレッジとクリエイティビティを育むことが重要。人々、企業、投資を引き寄せるのが都市の役割。都市は国のゲートウェイであり、経済の中心である。ビクトリア州でも50%がメルボルン管轄区に集約している。



メルボルンは世界の中でも競争力のある都市で、競争優位性を生かしている。様々なデザイン的要素が都市の中に反映されている。メルボルンはデザインの能力に富んでいて、独自のストーリーと歴史があります。

何千人というデザイナーがメルボルンで活躍しており、ファッション、テキスタイル、都市設計、などそれぞれの分野のデザイナー達が交流を行なっている。この分野は輸出では3億ドルの貢献をしており、デザイン・コンサルタントの収入は約49億ドル。メルボルンの企業の70%は日々の活動の中で、おもしろさと意外性を打ち出している。

88年代初頭にメルボルンは活気のない都市だったが、その後30年以上を経てルネッサンス期を迎えた。計画的な建築を行い積極的な都市計画も進められた。19世紀のゴールドラッシュを背景として、その遺産を受け継いできた。そしてそれを基盤として美術的な要素も加えて来た。

メルボルンは今、成長期を迎えている。メルボルンの中心地にレーンウェイ(裏道)やアーケードが結びつき、独自の雰囲気を作っており、バー、カフェがこのレーンウェイに軒を連ね独自の雰囲気を楽しめるようになっている。デザインの文化を生かし産業全体でデザインに対する関心度を高めてきている。

デザインの文化を生かし、フリダストリート・デザインコンペティションやオープンハウス、メルボルンファッションウィーク、ポストコード3000など様々なイベントも活発に行なわれている。

メルボルンにはデザイン事務所やデザイン関係の研究機関や教育機関などが軒を連ねている。RMIT大学(建築学、デザイン)、メルボルン大学、スインバン大学などの教育機関が才能を持つ豊かな人材を輩出している。このような教育機関や企業や行政が産官学の協力をしながら、可能性の限界を広げるような活動をしている。

以下、いくつかの注目に値する建築物の紹介をする。

- ✓ RMIT大学スワンソンアカデミックビル(RMIT大学)の設計例の紹介 (ライオンズアーキテクト社)
- ✓ ANZセンタービル

環境配慮されている建物の評価に使われるグリーンスターの評価で星6つ。

- ✓ メルボルン市役所(環境に配慮したグリーンビルディングの模範的ビル)
- 2006年に始めてオーストラリアで星6つ(デザインインクアーキテクト社)

特にメルボルン市役所の建物はオーストラリア大学、CSRIO(科学産業研究機関)の協力のもとで進めたプロジェクト、メルボルン市では産業のエキスパートと協力して、都市計画、建築デザイン、産業デザイン、戦略的プランニング、プロジェクトマネジメントの能力の高い人材を内部に集めている。

都市開発デベロッパーよりも早い段階からプロジェクト内で計画的にプランし、質の高いサービスを提供している。デザイン関係の意思決定の背景には 10 年間以上にわたる様々な人間工学的な研究の結果をベースにした意思決定を行なっている。

スワンストン通り(タウンホールが面している)の街路に対して多額の投資を行なってきた。交通と人との分離。イノベティブなデザインは都市計画の大きな鍵になる。

サステナビリティに富んだ成長と気候変動に対する対応がなされている。イノベーションに富んだ市政とクリエイティビティをもって様々な障害を乗り越えていきたい。

BPC都市と提携しながら、様々なソリューションを提供できればいいと思っている。

【クロージング】 - 発表者: オーストラリアン・インダストリー・グループ ビクトリア支部 局長 ティム・パイパー氏

AIGは全豪で1万名の会員、ビクトリア州では4000名の会員。

まずはパイパー氏よりディスカッションの前のショートスピーチ

<ビデオ鑑賞1「スポーツとお手洗い」>

オーストラリアでは工業が一番大事。成長率8.1%、金融と保険も重要。シンガポールに似ている。(シドニー、メルボルン、シンガポールは競合している。)

RBA(Reserve Bank of Australia)の予測。

成長率は3%以上を予想されている。

「デザイン産業について」

<ビデオ鑑賞2 デザインの重要性のCM>

何か物事始める前にデザインを考えないといけない。デザインは機能以上に重要。お互い協力しながら、デザインを向上させていく。お互いの情報交換することで向上させていくことが大事。



【フリーディスカッション】

<香港>

デザインの振興はどのようにすればいいのか？私達がデザイナー同士の協業をつくらうとすれば、どうすればいいのか？

<ティム・パイパー>

デザイン業界のネットワーキングが出来ればいいのか。

<バンコク>

タイは農業国である。例えば食品について、「1つの村=1つの製品」を掲げて、外に向かって売れるものがあると知らしめようとしている。国際的基準や規格にみあったシールなどをつけて外に出すことが大事。



<ティム・パイパー>

どのようにして商品を商業化していくのか？オーストラリアの食品業界では、アジア人が好むような商品を出しているというアイデアがある。先ほどのインドネシアのプレゼンの中で、有料道路についての役割分担について再度お聞かせいただきたい。

<ジャカルタ>

インドネシアの有料道路、国営と民間の協働。現在、非常に多くの有料道路が国営で建設している。韓国や日本の協力を得て、道路建設が成されている。

<ティム・パイパー>

シンガポールでも電気の配電について高い成功を収めている。デザインは何もハンドバックに限ったことではない。このようなことでもデザインは必要になってくる。

<シンガポール>

デザインはクリエイティブな産業を想像しがちだが、それだけではない。環境デザインもある。デザインとは人がより簡単に、より良い形で何かを実現するための支援と考える。シンガポール電力がメルボルンの半分の電力を供給している。

<ティム・パイパー>

デザインの知識の共有化をBPC間でどうやってできるか？上海から何かコメントはありますか？

<上海>

お互いの市場を情報交換などで理解することができる。上海には浦東の自由貿易区がある。是非、そこにお越しいただき、上海の市場を感じて欲しい。

<ティム・パイパー>

大阪はBPCの意見交換や情報交換を促進する役割ができるか？大阪がBPCネットワークの中心となってこれらの役割を果たすことができるのではないか。

<大阪>

コンタクトパーソンスキームを通じて、情報を共有化していくことが可能である。大阪に情報をいただければ、そこから、各都市へその情報を発信することが可能である。

<ティム・パイパー>

大阪はBPCの中で素晴らしい役割を果たしている。大阪を介して情報の交換ができる。ビジネスの分野で沢山のことが可能である。

<大阪>

大阪はその役割を果たす用意がある。

<ビデオ鑑賞3「ゴルフコースの設計」>

【コンタクトパーソンスキームについてのプレゼン】 - 発表者：大阪市経済戦略局 国際課 鳥山孝之氏
連絡窓口スキーム 昨年の提案に基づいてこのスキームを作った。

直接都市間のやり取りを促すためのもの。12 都市から報告されてリスト化されている。調査の結果、まだ実際に活用した成功事例が2, 3しかなかった。理由はおそらく窓口の方が対応に苦勞していることが考えられる。人



材育成プログラム(2週間大阪にて)こちらへの参加を呼びかける。

ネットワークをさらに強化するためにこのプログラムがある。ほかにも提案があればぜひお聞きしたい。

【ジャカルタからの次回開催についてのプレゼンテーション】

- 発表者: ジャカルタ商工会議所 外交委員長 ファイティヤ・フェラジア・ハルミディ氏

ジャカルタで前回、BPCラウンドテーブルが開催されたのは1998年。ジャカルタの魅力について説明。マレーシア、シンガポールの人々も観光にジャカルタに来る。ゴルフコースも整っている。740. 28平方キロの広さを抱える都市。

来年は国会議員選挙、大統領選挙などがあるため、それが落ちた後の11月に行きたい。ジャカルタは現在、開発、経済投資に熱心な活気のある街である。ぜひ皆さんを喜んでお迎えしたい。



【メルボルン副市長スーザン・ライリー氏より各都市へお土産の記念品贈呈】



【集合写真撮影】



4. 関連行事

<BPC ラウンドテーブルウェルカム&ネットワーキングレセプション>

開催日時: 2013年9月4日(水) 18:00~20:00

会場: メルボルンコンベンション&エキジビジョンセンター Clarendon Room

内容: ウェルカムセレモニー

(オーストラリア伝統の式典)

歓迎挨拶:

メルボルン市副市長 スーザン・ライリー 氏

主催者挨拶:

大阪市副市長 村上 龍一 氏

BPC 参加者紹介

乾杯発声: 大阪市会議長 美延 映夫 氏

基調講演: デロイト・オーストラリア社

最高戦略責任者 ゲルハルト・フォルスター

参加者数: 約 100 名 (大阪市ミッション団、BPC ラウンドテーブル参加者、大阪プロモーションセミナー参加者
メルボルン市招待者<デザイン産業、教育関係、政府機関等>、大阪経済ミッション
参加者、他都市ミッション参加者、事務局関係者)



<メルボルン・スプリング・ファッション・ウィーク ランウェイ>

開催日時: 2013年9月4日(水) 20:30~21:30

会場: メルボルン市庁舎



<BPC ビジネスフォーラム>

開催日時: 2013年9月5日(木) 9:30~11:30

会場: RMIT 大学

テーマ: 「アジア世紀のデザイン」

進行: オーストラリアデザイン協会 ディレクター

Mr. Dominic Russo

プログラム: 歓迎挨拶及びBPCアウトライン紹介

メルボルン市 経済発展ポートフォリオ 委員長

ケビン・ルイー氏

講演① 「デザインがいかにかに企業の経済成果に貢献するか」

RMIT 大学 ビジネス&デザイン、経済学、財政&マーケティング教授 Ms. Gerda Gemser

講演② 「オーストラリアデザインのユニークな特徴」

CobaltNiche 社 社長 Mr. Steve Martinuzzo

講演③ 「バイオテクノロジーとデザイン」

モナッシュ大学 デザイン国際リサーチ 教授 Mr. Mark Armstrong

講演④ 「都市の変換」



メルボルン市 都市デザイン局長 Mr. Rob Adams
質疑応答

<BPC ラウンドテーブル・フェアウェルレセプション>

開催日時： 2013年9月5日(木) 18:30~20:30

会場： グランドハイアット The Residence

内容： 歓迎挨拶：

メルボルン市副市長 スーザン・ライリー 氏

BPC代表挨拶：

大阪ビジネスパートナー都市交流協議会常務
理事兼事務局長 唐内 聡 氏

BPC 参加者紹介

参加者数： 約 70 名 BPC ラウンドテーブル参加者、メルボ
ルン市招待者(デザイン産業、教育関係、政府関係等)、大阪経済ミッション参加者、事務局関
係者等

